

まちづくり連続講座①9 再び「新庁舎問題」で討論集会

これでいいのか！市庁舎建て替えの進め方

「市民まちづくり連続講座 in 明石」の第19回講座は、2020年1月11日（土）に再び「新庁舎整備計画」を取り上げ「緊急討論集会」として開催します。

新庁舎建て替え問題は、市議会が10月に突如「現在地での建て替えを早急に進める」決議を全員一致で採択し、新しい段階に入りました。市は「議会の意思を尊重して取り組む」としていますが、このままでは市民への説明も市民参画の手順もないがしろにしたまま、2020年3月には「基本計画」が決まり、巨額の費用を要する庁舎建設が走り出しかねません。

市民は、議会は、行政は、どう対応するべきなのか？ 皆で話し合いませんか。どなたでも参加していただけます。

第19回 市民まちづくり連続講座 in 明石

日時 2020年1月11日（土）午後1時30分～4時30分

会場 ウイズあかし8階 市民活動支援センター・フリースペース（アスピア明石8階）

テーマ 討論集会「庁舎の建て替え計画は、どう進めるべきか！！」

討論集会には市議会本会議で「現在地への早期建て替え推進」を全会一致で決議した市議の皆さんにも出席を要請し、市民と議員が市庁舎建て替え問題を一緒に考えます。

※無料。事前申し込みは不要。どなたでも参加できます。当日会場にお越しください。

明石市議会に「公開質問書」提出へ、市長には要望書も

新庁舎を現在地で建て替えた場合の概算費用について、市は138億円としています。実際には、周辺整備費などが必要になり、140億円を超す大規模な公共事業になります。

市議会の推進決議では、防災面や市民参画に対する配慮を“付帯条件”として尊重するように求めています。議論が不十分なまま放置された問題点は数多くあります。

このため、市民自治あかしは12月議会開会に合わせて、6つの問題点に絞って「公開質問書」を市議会に提出します。また、泉市長に対しても「市民への説明」や「計画過程への市民参画」を行うよう求めた要望書を提出します。

市議会への公開質問書の質問事項は、次の通りです。

1. 唐突な9月26日の特別委員会議決、審議は尽くされたのか？
2. 「庁舎のあり方」についての議論がないまま、早期建て替え促進決議でいいのか？
3. 市庁舎建設に「市民の参画」をどのように保障していくのでしょうか？
4. 市庁舎の防災対策について、災害時にも必要な機能をどう考えられていますか？
5. 数ある候補地から「現在地」を適切と判断した根拠は何ですか？
6. 決議の決め手になった国の財政支援は、本当に有効なものになるのでしょうか？

広大な農地つぶして大規模開発計画が浮上

JR大久保～魚住駅間に新幹線車両基地

明石市の貴重な「農業振興地域」であるJR大久保～魚住駅間の市街化調整区域に、JR西日本が山陽新幹線の車両基地を計画していることが、突如浮上しました。11月15日付で神戸新聞が大きく報道し、テレビ・新聞の一部も追いかけて報道しました。かねてから狙上に上がっていた新駅も併せて、一帯が大規模に都市開発されることに、明石市も期待をかけているという報道です。

リニア新幹線が大阪に延伸された際に、山陽新幹線の需要が膨らむという見通しに基づく長期的な計画だけに、JRも「まだ何も決まっていない」と慎重なコメントを出していますが、9月末に「両者が一体となって鉄道沿線のまちづくりをめざす」という異例の「包括連携協定」を明石市がJR西日本と締結しているだけに、両者間で密かに協議されてきた可能性があり、今後、明石市の大きな問題に発展しそうです。



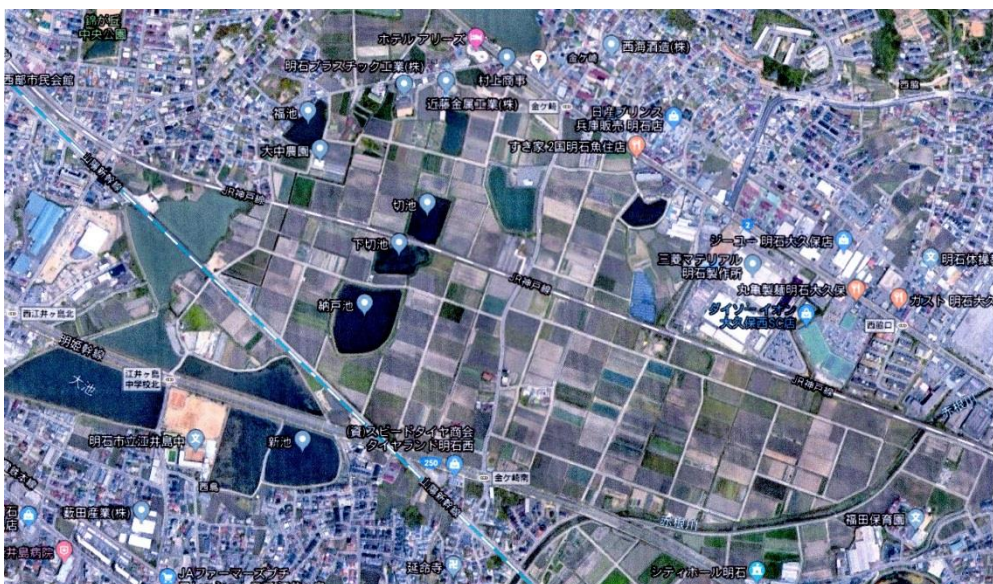
JR 東海の大阪・新幹線烏飼車両基地（摂津市）37 畝

コウノトリ飛来地に「開発優先」の動き、市民知らぬ間に！

報道によると、検討されている車両基地は新幹線用に20線程度、在来線用に10線程度の規模で、約30ヘクタール。さらに基地周辺に新駅を開設し、周辺を宅地や商業地域として開発することによって、全体で最大100ヘクタールを超す規模の開発になるという。新幹線と在来線および在来線と国道2号線の間広がる東西約2キロの農地とため池の大半を開発し尽くすこととなります。

山陽新幹線を運行するJR西日本が車両のメンテナンスをできる大規模な新幹線車両基地は福岡県にしかなく、柔軟なダイヤ運用や災害時の対応、大規模な増発に備えて大阪に近い基地が必要という背景があるようです。

一方、対象地域は良好な農業振興地域として開発を抑制する「市街化調整区域」に指定されています。開発から逃れた市内の農地が減少しつつある中、環境指標になり得るため池が豊かにまとまって存在する貴重な田園地帯です。こ



新幹線車両基地と周辺開発の対象になっている大久保、魚住町の市街化調整区域。中央右下から左上に横切るJR在来線。中央下から左上に伸びているのが新幹線。

うした良好な環境が功を奏して、コウノトリが飛来するようになっていきます。

7年前に策定された明石市農業基本計画では「農業が将来にわたって地域の産業として持続できるまちづくり」を掲げ、農業振興地区やため池の保全と活用を謳っています。こうした「まちづくりのビジョン」と「人口増加や活性化のためにさらなる開発」を求める動きが今後激しく対立するとともに、大規模な車両基地がもたらす周辺環境への住環境悪化の影響が、大きくクローズアップされてくるのは必至です。

また、JRと市で密かに協議が行われてきたことに対して、またもや、市民への「説明責任」とまちづくりへの「市民参画」のあり方が問われることになりそうです。